

大会宣言

沖縄の方言では赤ちゃんのことを宝宝（ぼうぼう）と言います。これは、古くから交易のあった中国の呼び方、バオバオが語源とされています。いにしえより、子どもは親や地域社会にとって宝そのものでした。

今日でも子どもは「未来の宝」です。子どもたちを慈しみ育むことは明日の社会を築いていくことであり、そのためにも、子どもと子育て家庭を社会全体で支える仕組みづくりが必要とされています。このことを確認し合い、より豊かな保育実践を築きあげていくため、九州各県の保育関係者 1,500 名余りが「自然と文化の清ら島」沖縄に集い、第 5 6 回九州保育事業研究大会を開催し、2 日間にわたり活発な研究討議を行いました。

昨今、子どもたちを取り巻く社会の状況は大きく変化し、少子化問題はかつてないほど深刻化しています。国では少子化対策を最重要課題と位置づけ、『子どもと家族を応援する日本』重点戦略』を策定し、「仕事と生活の調和の実現」と「包括的な次世代育成支援の枠組みの構築」を両輪とした社会基盤づくりを推進していこうとしています。

しかしながら、そうした施策には、経済成長を見据えた競争と市場原理の導入による、量的なサービス供給基盤の確保に比重が置かれ、子どもを主体とした保育本来のあるべき姿が失われようとしていることに、私たちは大きな危惧の念を抱かざるを得ません。

その一方で、改定保育所保育指針では、保育所（園）に対して、子どもと子育て家庭が抱える多様なニーズに対し、一人ひとりの子どもの発達や特性にあったきめ細かな支援体制を充実させ、地域の子育て支援活動の拠点として様々な社会資源との連携を図りながら柔軟に対応していくよう、新たな役割と機能を強く求めています。

このような保育施策の動向と、社会から期待されている保育所（園）の使命との間で、私たちは大きな矛盾や戸惑いを禁じ得ませんが、だからこそ、子どもや子育て家庭を支援する立場から、また、子どもの最善の利益を守るためにも、現場からの声をあげていく必要があります。

子どもたちの健やかな成長はいつの時代でも保障されるべきものであり、子どもたちの笑顔があふれる未来を創る為にも、私たちは「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」という大会主題の達成に向かって、保育サービスの向上に尚一層の努力と研鑽を重ねるとともに、子どもの育ちを主眼とした保育制度を堅持するため、社会に強く働きかけていくことを宣言します。

平成 20 年 7 月 4 日

第 5 6 回九州保育事業研究大会